森林環境保全総合対策事業（拡充）

【平成26年度概算決定額　１０７，９８０（１１９，２９０）千円】

事業のポイント

多様で健全な森林環境の保全のための施策を総合的に推進するための情報の収集・分析、技術の開発等を実施します。

＜背景＞

（世界遺産に関する状況）

・我が国の世界自然遺産地域やその候補地について、森林の世界遺産としての価値の保全及び向上を図るためには、民有林と国有林ならびに関係省庁との連携を図りつつ、必要な調査や対策の検討を推進する必要があります。

（花粉発生源対策に関する状況）

・国民的な広がりをみせているスギ等の花粉症については、関係省庁が一丸となって取り組むことが重要であり、当庁ではスギ・ヒノキ花粉の飛散量の推定などを進める必要があります。

（森林被害対策に関する状況）

・近年、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌によってナラ類等の樹木が枯損するナラ枯れ被害が発生しており、被害防止技術を開発する必要があります。

（優良種苗供給に関する状況）

・東日本大震災により大きな被害を受けた海岸林等森林の再生のためには、松くい虫に抵抗性のあるマツをはじめ地域の自然環境に適応した多様な樹種の苗木の安定供給が必要です。また、立地条件に応じた造林のための樹木の生育環境への適応性の評価の取組を進めることが必要です。

政策目標

森林・林業基本計画等に基づき、多様で健全な森林環境の保全を図り、森林の有する多面的機能の発揮を目指します。

＜内容＞

ア　世界遺産の森林生態系保全管理の推進

我が国の世界自然遺産地域及びその候補地において、森林生態系の保全管理に必要な調査等を実施します。特に、「小笠原諸島」において、兄島へのグリーンアノールの侵入を受け、低密度管理・根絶に向けた対策を検証する上で必要な種間相互作用の把握・変化予測等のための調査を新たに実施します。

イ　スギ・ヒノキ花粉の飛散量推定等の推進

スギの花粉飛散量予測の精度向上を図るためのスギ雄花着花状況調査を実施します。また、ヒノキ花粉発生量の推定のため、これまでに開発された画像解析によるヒノキ雄花観測技術等の実証調査を実施します。

ウ　森林被害対策の推進

ナラ枯れについて、様々な防除技術の効果を検証するとともに、これらを組み合わせて地域の状況に応じた総合的な被害対策を構築・普及します。

エ　森林再生に向けた優良種苗供給の促進

抵抗性の強いマツ等優良種苗の生産や広葉樹の種苗生産・流通の取組等を実施するとともに、造林木の生育環境への適応性の評価を実施します。

＜補助率＞
定額

＜事業実施主体＞
民間団体

＜事業実施期間＞
ア　平成２５年度～２９年度
イ　平成２６年度～３０年度
ウ　平成２４年度～２６年度
エ　平成２４年度～２６年度

［担当課：林野庁森林利用課、整備課、研究指導課］